

第62回 通常総会・会長講演・表彰式

日時：3月28日(土)
会場：S1 会場 13号館 1325 教室
13:40-14:10 会長講演「日本化学会の課題 ―この1年間を振り返って思うこと―」
平成21年度会長 中西 宏幸
14:20-15:20 第62回通常総会
15:30-16:30 表彰式
16:45-17:45 コンサート (Orchestra Chimica)
創立125周年を機に本会会員により結成された化学オーケストラによる演奏。参加費無料。

懇親会

日時：3月28日(土) 18:00～20:00
会場：ファラデーホール
参加費：一般4,000円、学生2,000円
申込方法：年会会場内の総合受付にてお申込下さい。

付設展示会

主催：(社)日本化学会
協力：(社)化学工業日報社
後援：日本科学機器団体連合会・(社)日本分析機器工業会・日本薬科機器協会・(社)日本試薬協会
日時：3月27日(金)～29日(日) 10:00～17:00
会場：理工スポーツホール
参加費：無料
出展社：(2月2日現在)
RSC PUBLISHING、(株)アーンスト・ハンセン商会、(株)IDX、朝日分光(株)、アジレント・テクノロジー(株)、インフォコム(株)、米国法人 Wavefunction, Inc.、(株)エヌ・ティー・エス、NPG ネイチャー アジア・パシフィック、HPC システムズ(株)、(株)エル・エム・エス、エルゼビア・ジャパン(株)、オーシャンフォトリクス(株)、大塚電子(株)、オックスフォード大学出版局、(株)オプティマ、オプトシリウス(株)、化学オリンピック日本委員会、(独)科学技術振興機構、(株)化学工業日報社、(社)化学情報協会、(株)化学同人、関東化学(株)、(有)桐山製作所、コンプレックス(株)、サイバネットシステム(株)、サンヨー電子(株)、CRC PRESS LLC、シグマアルドリッチジャパン(株)、四国計測工業(株)、柴田科学(株)、島津エス・ディー(株)、シュプリンガー・ジャパン(株)、純正化学(株)、シリスジャパン(株)、(株)スギヤマゲン、(独)製品評価技術基盤機構、センゲージラーニング(株)、(株)セントラル科学貿易、ダイセル化学工業(株)、WDB(株)、(株)デジタルデータマネジメント、(株)東京化学同人、東京化成工業(株)、東京工業大学、トムソン・ロイター サイエントフィック、ナカライテック(株)、日機装(株)、(社)日本化学会、(社)日本化学会 会員委員会、日本ケミカルデータベース(株)、日本電気(株)、日本電子(株)、日本分光(株)、日本分析工業(株)、バイオタージ・ジャパン(株)、(株)パキューブランド サイエントフィック ジャパン、浜松ホトニクス(株)、(株)ピアソン・エデュケーション、ピー・ユー・エス(株)、(株)日立ハイテクノロジーズ、ヒドラス化学(株)、(株)ヒューリンクス、富士シリシア化学(株)、富士通(株)、藤原製作所、マイクロ化学技研(株)、丸善(株)卸営業部、丸善(株)出版事業部、マイクロ電子(株)、武蔵エンジニアリング(株)、山善(株)、(株)UNICO、(株)ユニソク、ユラボジャパン(株)、(株)ライトストーン、(株)リガク、(株)菱化システム、(株)レッツェ、(株)ワイエムシイ、ワイリー・ジャパン、和光純薬工業(株)

企業の研究紹介

主催：日本化学会 産学交流委員会
日時：3月27日(金) 午後～3月28日(土)
会場：理工スポーツホール

学生に化学系企業を知ってもらうための説明会を開催する。不特定多数の学生に対し、各企業、個別に30分程度の説明を行い、質疑応答を行う。説明内容は、企業での研究に主眼をおき、魅力を語っていただく。

3月27日(金)		3月28日(土)	
13:30	三井化学(株)	10:30	東レ(株)
14:00	三菱化学(株)	11:00	ダイセル化学工業(株)
14:30	住友化学(株)	11:30	富士フイルム(株)
15:00	ダイセル化学工業(株)	13:00	三菱化学(株)
15:30	(株)ADEKA	13:30	住友化学(株)
16:00	富士フイルム(株)	14:00	旭化成(株)
16:30	帝人(株)	14:30	旭化成(株)
		15:00	東レ(株)
		15:30	三井化学(株)
		16:00	(株)ADEKA
		16:30	帝人(株)

参加費：無料。
申込方法：当日会場にお越し下さい。
問合せ先：(社)日本化学会 企画部 百武
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: hyakutake@chemistry.or.jp

ATP特別基調講演 『企業で独創性を発揮する― 質量分析開発から学んだこと―』

日時：3月27日(金) 13:00-14:00
会場：S1 会場 13号館 1325 教室

第89春季年会実行委員会では、田中耕一氏(島津製作所・フェロー)による企業の若手研究者・技術者に向けた特別基調講演を企画いたしました。会場の都合により本講演のみ事前予約制にさせていただきます。定員になり次第、申込受付を締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。

プログラム
企業で独創性を発揮する-質量分析開発から学んだこと-(島津製作所・フェロー) 田中耕一
対象者 企業で働く若手研究者・技術者(45歳未満)
参加費 無料*
申込 春季年会ウェブサイト(<http://www.csj.jp/nenkai/>)上の申込フォームよりお申込下さい。(2月2日より)
*ATP特別基調講演の聴講の場合のみ無料でご参加いただけます。ATPのほかのセッションおよび一般研究発表の聴講をご希望の場合には別途春季年会の参加登録手続きが必要です。

第二次先端ウォッチング イブニングセッション 生合成工学-酵素を駆使した 生物活性天然物の創製を目指して

日時：3月27日(金)
会場：SC 会場 11号館 1122 教室

高速シーケンス法の出現により、有用生物活性天然物の設計図ともいべき遺伝子情報が、容易に入手可能な時代に突入した。これは遺伝子発現を自在に制御できれば、どんな化合物でも合成できることを意味する。複雑な天然物の生合成に関与する基本酵素の反応機構が解明され、その応用がまさに展開されようとしている。本シンポジウムでは、ゲノム解析による膨大な数の構造未知天然物生合成遺伝子の発見、稀少天然物あるいはゲノム上に眠った天然物の生産の試み、代表的骨格合成酵素を用いた in vitro および in vivo における天然物の短段階合成、酵素ならではの官能基導入反応、改変可能なリボザイムを用いたペプチド合成などについて、大学のみならず製薬会社等の研究者に現状とその将来性について話題提供して頂き、活発な議論をかわりたい。

- プログラム
 14:00-14:10 はじめに
 14:10-14:30 ゲノム解析に基づく2次代謝のためのモデル系生物の構築—応用に向けて—(北里大生命研) 池田治生
 14:30-14:50 糸状菌メロテルペノイド骨格合成酵素の機能解析(東大院薬) 久城哲夫、海老塚豊
 14:50-15:10 植物ポリケチド合成酵素の生合成工学(静岡県大薬) 阿部郁朗
 15:10-15:30 非リボソーム依存性ポリペプチド合成酵素を用いた抗腫瘍性物質ライブラリー構築の試み(北大院理) 及川英秋
 15:30-15:50 酵素触媒機能の制御(慶大理工) 宮本憲二
 15:50-16:10 擬天然物特殊ペプチドのプログラム翻訳合成と応用(東大先端研) 村上 裕、菅 裕明
 16:10-16:30 微生物シトクロムP450モノオキシゲナーゼによる有用物質生産の現状と期待(メルシャン生物資源研) 有澤 章
 16:30-16:50 プレニル化酵素を活用した構造多様性の創出(東大生物生産セ) 葛山智久
 16:50-17:10 抗腫瘍性天然物プラジエノライドに基づく創薬研究(エーザイ創薬二研) 小竹良彦

**第二次先端ウォッチング
 イブニングセッション
 π電子科学：可能性の追求と展望**

日時：3月27日(金)
 会場：SD 会場 11 号館 1141 教室

π電子に焦点を当てた物質科学「π電子科学」は、有機トランジスタや有機太陽電池などの有機エレクトロニクスや単分子スケールで動作する分子エレクトロニクスなど、未来技術の基盤である。その発展は直接人々の生活形態の変化にもつながり、社会に対する波及効果も大きい。合成化学、構造化学、応用物理などを包含したこの融合領域において、エポックメイキングな分子をいかに生み出すか。本セッションでは、新奇な分子構造を求める・分子間相互作用を極める・展開応用性を考える、の3点について最前線の研究を通して議論することで、この分野における新たな切り口や視点を共有し、直面している課題の抽出を図り、また、応用の方向性、可能性を探りたい。

- プログラム
 15:00-15:10 趣旨説明(名大院理) 山口茂弘
 15:10-15:25 精密有機合成で挑戦するπ共役の次元性制御(分子研) 櫻井英博
 15:25-15:40 π共役系高分子の精密制御が拓く化学(神奈川大工) 横澤 勉
 15:40-15:55 機能性π電子系への典型元素アプローチ(名大院理) 山口茂弘
 15:55-16:10 巨大π共役骨格の創出から生み出される新物性(京大院理) 大須賀篤弘
 16:10-16:25 π電子系の分子間相互作用の緻密制御による配列制御(物材機構ナノ有機セ) 竹内正之
 16:25-16:40 ディスクリートπ電子系集積体の合成と物性(東工大資源研) 吉沢道人
 16:40-16:55 アモルファスから高次構造制御によるπ電子系デバイスの高性能化へ向けて(九大未来化セ) 安達千波矢
 16:55-17:10 単一π共役系分子の電気伝導特性(東工大院理工) 木口 学
 17:10-17:25 π電子系を使って見る分子のかたち(東北大院理) 磯部寛之
 17:25-17:40 π電子系の組織化から生まれる新たな展開(理研基幹研) 福島孝典
 17:40-17:55 高次π空間の創発(筑波大先端学際セ) 赤坂 健
 17:55-18:10 質疑

**化学系の大学生・大学院生、
 みんな集まれ！
 ～男女が共に働き続けるための
 アドバイス～**

主催：男女共同参画推進委員会
 共催：男女共同参画学協会連絡会

日時：3月27日(金) 13:30-17:30
 会場：SB 会場 11 号館 1121 教室

現在、男女共同参画社会の実現を目的として様々な学協会、企業、地域などにおいて男女共同参画が推進されている一方で、その存在や活動内容についてはまだ広く理解されていません。今回は、年会に参加する会員の大半が学生であることをふまえ、男女共同参画推進全体に関して、日本化学会での取り組み、男女共同参画社会の現状などを若い研究者に広く知っていただくために「化学系の大学・大学院の学生、みんな集まれ！～男女が共に働き続けるためのアドバイス～」と題したシンポジウムを開催します。また様々な分野や立場の方からフォーラムと題し話題提供を受け、後にディスカッションも企画しています。この機会を通してより多くの方に男女共同参画の推進をご理解いただけることを期待します。

- プログラム
 1. 挨拶 13:30～
 日本化学会会長 中西宏幸
 実行委員長 野村淳子
 2. 基調講演 13:45～
 「男女共同参画」とは何か、なぜ必要なのか、何を目標しているのか
 内閣府男女共同参画局長 板東久美子
 3. 報告 14:30～
 日本化学会の取り組み
 日本化学会男女共同参画推進委員会 佐々木政子委員長
 森 義仁委員
 4. フォーラム 15:00～
 企業での女性研究者のWLBの実際
 北海道大学客員教授・元(株)資生堂学術室・室長 長沼雅子
 日本企業における女性技術者・研究者のキャリア
 リコーソフトウエア(株)・取締役会長・グループ執行役員
 國井秀子
 女性研究者支援—日本女子大学の試み
 日本女子大学・男女共同参画室長 遠山嘉一
 女性研究者のための職場環境
 半導体エネルギー研究所 野村亮二
 0歳児育児と研究室運営と
 日本大学文理学部 松下祥子
 研究室を巣立った女性研究者への期待とその後
 神奈川大学工学部 引地史郎
 WLBの実現を目指して—只今第二子の育休中—
 三菱化学エンジニアリング(株) 鈴木昭子

5. ディスカッション 16:10～
 6. 閉会挨拶 17:20～
 日本化学会男女共同参画推進委員会担当理事 下井 守
 参加費：無料。
 申込方法：事前申込不要、会場にて受付。
 申込先・問合せ先：(社)日本化学会 総務部 佐藤
 〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
 電話(03)3292-6161 FAX(03)3292-6318
 E-mail: midori2@chemistry.or.jp
 ご案内：シンポジウム終了後18:00-19:30にパスカルホールにて懇親会を開催いたします。参加費は無料ですのでふるってご参加下さい。

**科学者・技術者の倫理と
 社会的責任を考える(5)
 —すべての科学者・技術者が
 備えるべき「倫理」を考える—**

主催：日本化学会 倫理委員会
 日時：3月27日(金) 13:00-17:10
 会場：S9 会場 7 号館 741 教室

科学者・技術者コミュニティである理工系の学協会は、人類の安全・健康・福祉の増進や環境保全のために重要な役割を果たすことが期待され、それぞれの領域に応じた「行動規範」「科学者・技術者倫理」を確立することが、その学協会が社会から受容されるための必要条件となっている。本シンポジウムでは、産業界において活躍するすべての科学者・技術者が本来身につけていなければならない倫理とは何かを考え、それを定着させるためのスキームについて、国際的な動向も視野に入れて議論を展開し、学会としての今後の取り組み方を考えてみたい。

プログラム

- 開会挨拶：小倉克之（日本化学会倫理委員会委員）
13:00-13:20 「日本化学会倫理委員会の活動現況報告」（日本化学会倫理委員会副委員長）伊藤 卓
13:20-14:10 「人工物を作る人の倫理」（仮題）（関西大学社会学部教授）齊藤了文
14:10-15:00 「マスコミからみた科学不正の実態とそれに対する提言」（仮題）（NHK エデュケーショナル エグゼクティブ・ディレクター）村松 秀
15:15-16:05 「倫理教育の問題点と日本化学会における改革の取組」（仮題）（日本技術士会化学部会幹事・日本化学会倫理教育検討小委員会委員）齊藤義順
16:05-17:00 パネル討論「すべての科学者・技術者が備えるべき「倫理」を考える」パネリスト：講演者ほか。コーディネーター：荒木芳彦（日本化学会倫理委員会倫理教育検討小委員会委員）
17:00-17:10 閉会挨拶（日本化学会倫理委員会委員長）山本嘉則

参加費：無料、資料代1,000円（予価）

申込方法：当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先（〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail）を明記し、下記宛お申し込み下さい。本会HPからもお申し込みできます。

問合せ先：（社）日本化学会 企画部 太田
電話（03）3292-6163 FAX（03）3292-6318
E-mail: oota@chemistry.or.jp

日本化学会・日本工学アカデミー ・科学技術振興 機構合同特別公開シンポジウム 「資源・エネルギー問題の本質： 現実的解決のための イノベーション」

主催：（社）日本化学会・（社）日本工学アカデミー・（独）科学技術振興機構
日時：3月27日（金） 13:00-17:00
会場：S8会場7号館 734教室

資源・エネルギーの減耗への対応が急がれる中、課題と解法を工学的なアプローチから議論します。課題は食料生産、化学原料と化学エネルギーそして原子力エネルギーに及ぶ。資源・エネルギーの見通しと技術開発課題を概観した上で、農業、化学工業、原子力発電の分野の課題と取組を詳論し、最後のパネル討論で現実的な解決の道を討論します。

プログラム

1. 開会挨拶（日本工学アカデミー会長）中原恒雄
2. 基調講演「資源・エネルギーの見通しと技術開発課題」（NEDO）福水健文
3. 『世界の食料生産とバイオマスエネルギー 2050年の展望』（東京大学農学生命科学研究科）川島博之
4. 『化学原料・化学エネルギーとしての炭素資源』（三菱化学）瀬戸山 亨
5. 『低炭素時代における原子力の役割』（元日本原燃・原子力委員会）竹内哲夫
6. パネル討論「資源・エネルギー問題をイノベーションで解決できるか？」司会：安井 至（科学技術振興機構）パネリスト：田中一宜（科学技術振興機構）瀬戸山 亨・竹内哲夫・御園生誠（製品評価技術基盤機構）
7. 閉会挨拶（日本化学会会長）中西宏幸

参加費・資料代：無料

申込方法：当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先（〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail）を明記し、下記宛お申し込み下さい。本会HPからもお申し込みできます。

問合せ先：（社）日本化学会 企画部 太田
電話（03）3292-6163 FAX（03）3292-6318
E-mail: oota@chemistry.or.jp

ケミカルレコード・レクチャー

主催：化学系学協会刊行フォーラム・Wiley-Blackwell
日時：3月28日（土） 11:00-12:00
会場：SF会場14号館1442教室
講演：Molecular Foundations of Surface Chemistry and Catalytic Selectivity by Metals (Dept. of Chem., Univ. of California, Berkeley) Prof. Gabor A. Somorjai
参加費：無料
申込方法：会場に直接お越し下さい。事前申込みは不要です。
問合せ先：（社）日本化学会 企画部 井樋田
電話（03）3292-6163 FAX（03）3292-6318
E-mail: tcr@chemistry.or.jp

日本学術振興会事業概要説明・ 大学教育研究費調査結果報告会

主催：日本化学会 将来構想委員会
日時：3月28日（土） 10:00-12:00
会場：SB会場11号館1121教室
プログラム

1. 『日本学術振興会の研究者への支援事業について：科研費を中心に』（独立行政法人 日本学術振興会）宮寛和男・岡本和久
2. 『これでよいのか大学の教育研究費：アンケート調査に基づく実態について（仮題）』（日本化学会将来構想委員会大学教育研究費調査小委員会委員長）楠本正一

参加費：無料

申込方法：会場に直接お越し下さい。事前申込みは不要です。

問合せ先：（社）日本化学会 企画部 太田
電話（03）3292-6163 FAX（03）3292-6318
E-mail: oota@chemistry.or.jp

市民公開講座 そここが知りたい！ ～身のまわりの化学～

第89春季年会（2009）実行委員会では、日本大学における春季年会会期中の3月28日（土）の午後に、恒例の一般市民の方々を対象とする「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回は市民の方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話していただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。ふるってご参加下さい。

日時：3月28日（土） 13:30-17:10

会場：SE会場階段教室大

プログラム

- 13:30-14:20 地震や気候変動を災害にしないために一過去は現在そして未来の鍵！—（NHK・アナウンサー）山口 勝
14:20-15:00 水、水、水；とても人間的な水の世界（名古屋大学・教授/理事/副総長）大峯 巖
15:10-15:50 生物は進化する：ダーウィンから現代の進化学までの道程（駒場博物館 自然科学博物館・館長）伊藤元己
15:50-16:30 世界は渋滞だらけ—さまざまな渋滞を科学する—（東京大学・准教授）西成活裕
16:30-17:10 「血管力」と「腸管力」を助ける乳酸菌とペプチドのチカラ（カルピス・顧問）江澤邦夫

参加費 無料

申込方法 事前申込不要。会場へ直接お越し下さい。

英国王立化学会 特別講演

日時：3月29日（日） 10:30-11:30

会場：S1会場13号館1325教室

プログラム

1. Global Challenges: Chemical Challenges and Opportunities (President of The Royal Society of Chemistry) Prof. C. David Garner

2. Chemistry, Energy and Climate Change (Chief Executive of The Royal Society of Chemistry) Richard Pike
参加費：無料
申込方法：会場に直接お越し下さい。事前申込みは不要です。
問合せ先：(社)日本化学会 企画部 井樋田
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: ihida@chemistry.or.jp

年会博士セミナー —博士課程学生・博士課程進学 希望者のための企業での研究と キャリアパスの紹介

主催：日本化学会
共催：野依フォーラム・(財)化学技術戦略推進機構 (JCII)・(社)日本化学工業協会
後援：(社)日本経済団体連合会・文部科学省・経済産業省
日時：3月29日(日) 13:00-17:50
会場：S3 会場 14 号館 1421 教室

科学技術で生き残りを図る日本において、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、学においても産においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が非常に期待されています。一方で、博士課程在学生在に企業・社会を実際に学ぶ機会が少なく、産に目を向ける場が少ないのが実情です。日本化学会では、2007年度より、「博士セミナー」を東京、大阪でそれぞれ開催し、また、第88春季年会では、「拡大博士セミナー」を実施、好評を得ております。第89春季年会におきましては、全国から大学院生が多く集まる春季年会を利用して、「博士セミナー」のコンパクト版(半日コース)として「年会博士セミナー」を開催致します。

プログラム

13:00-13:30 基調講演「産で働く意義と博士人材への期待」(博士セミナー実行委員長、旭化成顧問) 府川伊三郎
13:30-14:00 博士卒業企業研究者はどう考えているか(アンケート結果より)(博士セミナー実行委員、三井化学) 田中雄雄
14:10-16:40 博士卒業企業若手研究者による研究開発事例紹介とパネル討論
パネリスト：桑原広明(帝人)、真崎仁詩(新日本石油)、秋葉雅温(富士フイルム)
司会：長瀬公一(博士セミナー実行委員会副委員長、東レ)
16:40-16:50 総括 山近 洋(博士セミナー実行委員会副委員長、住化技術情報センター)
16:50-17:50 パネリスト、実行委員との質疑応答・意見交換
参加費：無料。
申込方法：当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先(〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail)を明記し、事前に下記宛お申込み下さい。
申込先・問い合わせ先：(社)日本化学会 企画部 松原・百武
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

環境・安全シンポジウム 2009 環境安全に配慮できる人材の育成 —大学における教育の現状と 方向性—

主催：日本化学会 環境・安全推進委員会
日時：3月29日(日) 13:30-17:00
会場：S7 会場 14 号館 1432 教室

大学は研究教育機関として、新規の実験研究が抱えるリスク、環境安全の確保、コンプライアンス等を考慮したうえで、合理的でバランスのとれた安全管理と教育手法の確立が重要かつ喫緊の課題となっている。また、社会へ向けての人材輩出といった役割を考えると、学生の環境安全に対する意識や感性を着実に醸成し、合理的な環境安全配慮姿勢およびリスク削減の考え方を身につけさせるための教育プログラムが必要である。本シンポジウムでは、

大学実験室におけるいくつかの具体例をとりあげ、その問題点の抽出と解決策の提案を行うとともに、新しい管理手法や教育プログラムのあり方を考える。

プログラム

13:30-13:45 開会挨拶(環境・安全推進委員会 委員長) 山辺正顕
13:45-14:15 大学における事故事例とその活用(東京大学大学院新領域創成科学研究科) 大島義人
14:15-14:45 局所排気装置の適切な運転と合理的な管理((株)ダルトン) 春原伸次
14:55-15:25 安全講習のあり方と体験的学習の有効性(大阪大学安全管理部) 山本 仁
15:25-15:55 企業が求める大学の安全教育(日立化成工業(株)CSR室) 藤井義勝・下田修一郎
16:00-17:00 パネルディスカッション—アンケート結果の解析をもとに(総司会：事業小委員会 委員長) 大島義人
参加費：無料。講演資料代：1,000円(当日徴収)。
定員：100名
申込方法：「3/29 環境・安全シンポジウム出席」と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX番号・E-mailを明記のうえ、E-mail(matsubara@chemistry.or.jp)にてお申込みください。なお、当日は13時から受付を行います。
申込先・問合せ先：(社)日本化学会 企画部 松原・保倉
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp
ご案内：環境・安全シンポジウム併催行事として、「第3回環境・安全問題見学会」を実施いたします(平成21年3月30日(月)午前、於：三井化学(株)市原工場)。詳細は本誌2月号講演会・講習会欄またはウェブサイト(<http://www.csj.jp/es/>)をご覧ください。

日本化学連合・日本化学会・ 科学技術振興機構共催特別 公開シンポジウム 「サステイナブル資源・物質戦略」 —Sustainability Technology (ST)を保証するイノベティブ “ナノ化学空間”—

主催：日本化学連合・日本化学会・科学技術振興機構
日時：3月29日(日) 13:00-16:40
会場：S6 会場 14 号館 1431 教室

化学はナノテクノロジーの創出と発展に大きく貢献してきた。また政策課題である環境・エネルギー問題などにおいてもナノテクノロジーがキー技術として期待されており、基盤としての化学的機能・合成・解析などが果たす役割は非常に大きく、特に「ナノ化学空間」から生まれるナノテクノロジーは今後のSustainability Technology (ST)を保証する革新的技術として重点的な研究推進が図られるべきである。しかし、ナノテクノロジーと化学を真正面から結び付けて両者の関係を検討した例はあまりない。そこで、日本化学連合では「ナノテクノロジーと化学についての検討会」を発足させ、新しいコンセプト：Sustainability Technology (ST)を保証するイノベティブ「ナノ化学空間」を作り上げ、「元素戦略」を補完し革新的ナノテク機能を創出・発展させる施策として、我が国の今後の「資源・材料戦略」の大きな柱として、提案書の形にまとめ文部科学省に提出した。その内容は今後の環境・エネルギー・資源問題への対応も含め、化学の原理に基づいて、従来の研究の延長線上でない革新的・挑戦的課題に、ナノテクノロジーとサイエンスから大胆に挑戦していくものである。「ナノ化学空間」は、秩序空間、無機有機複合空間、表面・界面、超分子・巨大分子、集積構造体などを含み、それらの合成、機能化、反応、解析などを通してSustainable Technology (ST)を保証するイノベティブなナノテクノロジーが想定される。ナノテクノロジーと化学を結びつけた「ナノ化学空間」のコンセプトについて、多くの化学関係者への理解と浸透を目的とするシンポジウムを、日本化学会と科学技術振興機構との三者の共催で、日本化学会の春季年会特別企画シンポジウムとして開催する。

プログラム

13:00-13:05 開会挨拶(日本化学連合会長) 御園生 誠

13:05-13:15 趣旨説明(日本化学会前筆頭副会長・東大院理) 岩澤康裕
13:15-13:40 「ナノテクノロジー・材料分野における文部科学省の施策と化学への期待」(文部科学省 ナノテクノロジー・材料開発推進室) 山下 洋
13:40-14:05 「経済産業省の化学分野におけるナノテク関連技術開発について」(経済産業省機能性化学品室長) 福田敦史
14:05-14:40 「自己組織化空間の創造化学」(東大院工) 藤田 誠
14:40-15:15 「ナノ化学空間を利用した動く高分子ネットワーク」(東大院新領域) 伊藤耕三
15:25-16:00 「次世代型高次機能性ナノ金属錯体:分子量子磁石から巨大三次非線形光学効果まで」山下正廣(東北大院理)
16:00-16:35 「企業におけるサステナブル資源・材料戦略」(JST) 今成 真
16:35-16:40 閉会挨拶(日本化学会副会長) 澤田嗣郎
参加費・資料代: 無料
申込方法: 「3/29 ナノ化学空間シンポジウム出席」と表記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX 番号・E-mail を明記の上、E-mail (ishida@jucst.org) にてお申し込み下さい。
申込先・問合せ先: (社)日本化学連合 事務局 石田
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5 化学会館
電話(03)3292-6010 FAX(03)3292-6319
E-mail: ishida@jucst.org

第3回化学遺産市民公開講座 『戦後日本の技術革新と化学産業の 発展—われわれの暮らしをいかに 変えたか—』

主催: 日本化学会・化学史学会
共催(予定): 国立科学博物館・日本化学工業協会・化学技術戦略推進機構・千葉県教育委員会ほか
日時: 3月29日(日) 13:00-17:35
会場: S5 会場 14 号館 1423 教室

我が国における化学に関する貴重な資料・史料の調査と収集、また、そのデータベース化を目指して、平成17年3月、日本化学会内に「化学アーカイブズ小委員会」(現:化学遺産委員会)を立ち上げ活動しています。この事業へのさらなる協力と理解を得るため、我が国の化学史・化学工業史に関する第3回市民公開講座を開催いたします。また、講演内容に関連する歴史的に貴重な史料の展示会を下記により展示いたします。ぜひふるってご参加をお願い申し上げます。

プログラム

総合司会: (日本化学会化学遺産委員会顧問/(株)トクヤマ相談役) 三浦勇一
13:00-13:05 開会挨拶(日本化学会平成21年度会長) 中西宏幸
13:05-13:20 日本化学会化学遺産委員会の活動について(日本化学会化学遺産委員会委員長) 植村 榮
13:20-14:00 基調講演『20世紀の化学技術:21世紀が見えてくる』(化学史学会会長・日本化学会化学遺産委員会委員/名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネータ) 亀山哲也
14:00-14:50 『繊維技術をベースとした技術開発』(東レ(株)繊維研究所所長) 笹本 太
15:00-15:50 『ハプニングとセレンディピティから生まれた技術革新:ポリオレフィン製造技術』(三井化学(株)シニアリサーチフェロー) 柏 典夫
15:50-16:40 『化学が支える電気分解技術の進化:水銀法からイオン交換膜法へ』(旭硝子(株)取締役常務執行役員 CTO) 加藤勝久
16:40-17:30 『JSR(株)の事業構造の変革と今後の日本化学産業』(JSR(株)専務取締役) 小柴満信
17:30-17:35 閉会挨拶(日本化学会化学遺産委員会委員) 岡崎廉治
史料展示会ご案内:
日時: 3月27日(金) 午後~29日(日)
会場: 日大理工学部船橋キャンパス理工スポーツホール
展示候補: 講演内容に関する写真・説明用パネル・製品展示ほか
参加費: 無料、講演会資料代1,000円(予備)
申込方法: 当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先(〒、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail) を明記し、下記宛お申し込み下さい。本会 HP からもお申し込みできます。
問合せ先: (社)日本化学会 企画部 太田
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: oota@chemistry.or.jp

第26回化学クラブ研究発表会

主催: 日本化学会 関東支部
後援: 文部科学省
協賛: 味の素(株)
日時: 3月29日(土) 9:40-17:30
会場: SE 会場 階段教室(大)/階段教室(小)

環境ナノテクノロジー —石油リファイナリーの転換と 省エネに貢献するナノテク—

主催: 日本化学会 産学交流委員会
日時: 3月30日(月) 10:00-16:50
会場: S3 会場 14 号館 1421 教室

石油の高騰によりバイオマス市場が立ち上がりそうな勢いである。20世紀末から環境3Rの掛け声で推進されてきたケミカル製品の開発に、バイオリファイナリーという新たなパラダイムが加わり、原油を原料としてきたケミカル製品のプロセス革新も行われつつある。本シンポジウムでは、生物に必要な水資源問題解決に利用されるナノテクノロジーから、新たなプロセスパラダイムであるバイオリファイナリー、製品に展開されている省エネナノテクノロジーという原料から製品に至る流れで持続可能な社会発展に寄与する環境ナノテクノロジーについて議論したい。

プログラム

10:00-11:00 基調講演「環境ナノテクノロジー」(東北大学 多元物質科学研究所 教授) 栗原和枝
<水資源問題>
11:00-11:40 ナノテクノロジーによる水再利用とリン回収の技術(北海道大学 環境ナノ・バイオ工学研究センター センター長・特認教授) 渡辺義公
11:40-12:20 世界の水環境問題解決に貢献する日本の膜分離技術(東レ(株)顧問) 栗原 優
12:20-13:20 昼食休憩
<環境プロセス>
13:20-14:00 植物由来のバイオディーゼルの生産(仮題)(大阪大学大学院工学研究科 特任准教授) 柴垣奈佳子
14:00-14:40 バイオマスから有用化学品へ—新規生体触媒の開発—(仮題)(三井化学(株)触媒科学研究所生体触媒技術 UL) 田脇新一郎
14:40-14:50 休憩
<省エネ>
14:50-15:30 ハイブリッド自動車と材料(仮題)(トヨタ自動車(株)HV材料技術部 部長) 村松正隆
15:30-16:10 ハイブリッド水性塗料(仮題)(日本ペイント(株)執行役員 R & D 本部長) 青木 啓
16:10-16:50 太陽電池の開発動向と材料(シャープ(株)ソーラーシステム事業本部本部長) 佐賀達男
司会進行: 戸嶋直樹(山口東京理科大)、長瀬公一(東レ)、倉地育夫(コニカミノルタビジネステクノロジーズ)、前田修一(三菱化学科学技術研究センター)
参加費: 無料。講演要旨集: 希望者に1,000円で頒布。
申込方法: 当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先(〒、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail) を明記し、事前下記宛お申し込み下さい。
申込先・問合せ先:
(社)日本化学会 企画部 松原・百武
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

第16回化学教育フォーラム 理科・化学の普及交流を考える

主催: 普及・交流委員会 フォーラム企画 TG
日時: 3月30日(月) 09:00-14:00

会場：S2 会場 13 号館 1326 教室

日本化学会化学教育協議会 普及・交流委員会は幅広く様々な活動を行っておりますが、その活動の詳細については意外に知られておりません。そこで今回のフォーラムを通じて広く知っていただき、普及交流の現状と問題点を整理し、多方面の先生方との議論を通して、中・高現場の化学教育を支援する材料を提供したいと存じます。また、化学の普及交流活動における指導者の養成法や安全な実験法など情報交換の機会を会場で持ちたいと思います。

プログラム

<09:00-09:15>

1. 開会の挨拶（化学教育協議会議長・東京理科大学）井上祥平
2. 要旨説明（普及・交流委員会委員長：開成中学高等学校）齊藤幸一

<09:15-10:15>

3. なぜナニ化学クイズショー（クイズショー TG 主査：早稲田大学）鹿又宣弘

4. 出会いのための実験体験—幼稚園・学童保育への活動を通じて—（実験体験 TG 主査：桐蔭横浜大学）齋藤 潔

5. 全国の小学生に家庭でできる実験を届ける「わくわく理科タイム」—楽しく実験を通して科学する心を育てる—（わくわく理科タイム TG 主査：江東区立龜戸第二中学校）牧野順子

<10:30-11:30>

6. 化学だいすきクラブの活動紹介と展望（化学だいすきクラブ小委員会委員長：首都大学東京）内山一美

7. 全国高校化学グランプリ—現状と今後の展開—（化学グランプリ・オリンピック委員会委員長：武蔵大学）葉袋佳孝

8. NICE—アジアにおける化学教育者ネットワークへのお誘い—（国際関係小委員会委員長：東京学芸大学）鎌田正裕

<11:40-12:30>

9. パネルディスカッション（普及・交流委員会委員長：開成中学高等学校）齊藤幸一

10. 閉会の挨拶（普及・交流委員会委員長：開成中学高等学校）齊藤幸一

<12:30-14:00>

11. 情報交換会

参加費：無料。

申込方法：事前申込不要。

申込先・問合せ先：

(社)日本化学会 企画部 大倉

〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5

電話(03)3292-6164 FAX(03)3292-6318

E-mail: ohkura@chemistry.or.jp

JST Innovation Bridge: 学から産へのシーズ発表会

主催：(社)日本化学会・(独)科学技術振興機構

日時：3月30日(月) 午後

会場：S4 会場 14 号館 1422 教室（発表会場）/S5 会場 14 号館 1423 教室（相談会場）

大学等のシーズを産業界の視点で見出すための産学の出合いの場として、標記発表会を第 89 春季年会にあわせて実施致します。本企画は、ここでの出合いがその後、科学技術振興機構（JST）の研究費支援公募事業（最長 1 年、800 万円程度/課題）への応募等、産学連携に発展することを期待しております。ご自分の研究のアイデアや成果、技術シーズを産業への応用に発展させること期待される大学等の研究者からのユニークなテーマを募集し、広く産業界の方々にお聞きいただきます。

プログラム

プログラムの詳細は(独)科学技術振興機構の HP

に掲載いたします。(URL:<http://deainoba.jp/>)

参加費：無料。

申込方法：(独)科学技術振興機構の HP (URL:<http://deainoba.jp/>) よりお申し込み下さい。

問合せ先：

(独)科学技術振興機構 技術展開部イノベーション創出課

〒102-8666 千代田区四番町 5-3

電話(03)5214-7995 FAX(03)5214-8496

E-mail: innovdei@jst.go.jp